



切り絵 比企善彦作

うぶすな

茨木神社社報
発行所
茨木神社社務所
茨木市元町4-3
072 (622) 2346
<http://www.ibarakijinja.or.jp/>

島下郡の祇園祭

当神社の主祭神は素盞鳴命様で、京都の八坂神社と同じ神様をお祀りし、また当地は摂津国島下郡とよばれていたところから、当社の夏祭を「島下郡の祇園祭」と呼ばれていました。

祇園祭は、古来より、夏は疫病がはやる季節に、疫病を神様のお力で護ってもらうために、始まったと言われています。また神様から計り知れない御神徳を受けていることに対する御礼に、年に一度氏子地域を巡りご覧いただき御神慮をお慰めするのが渡御(神幸祭)です。

当神社夏祭の神輿渡御は、いつの頃に始められたかは定かではありませんが、大神輿の四面に吊された鏡に今から二百五十余年前の宝暦十年(一七六〇年)の銘があり、少なくともこの年以前から御神輿の渡御が行われていたことが伺われます。

戦前は、全町を七組に分けて太鼓および神輿を担当する当番町が順次年番として決められ執り行われてきましたが、戦後は祭礼委員会を組織して斎行されるようになりました。昭和九年に大阪府が刊行した「郷社現行特殊神事」に、当時の当神社の夏祭の様子が詳しく記されていますが、大神輿に関してはほとんど変わらず受け継がれていることがわかります。昭和三十年代後半頃、人口の増加とともに子供達の思い出と祭りをいっそう盛大に催したいとの思いから子供神輿を一基また一基と新調し、さらに昨年には中学生の為に一基ご寄贈を受け、計七基を擁する今日の姿になりました。

本宮の夜は、百件近くの夜店が並び人で埋め尽くされた境内に、太鼓の音と神輿のかけ声とともに次々と神輿が宮入する光景は壮観さと荘厳さを感じます。

清秀公概記

中川氏は摂津多田源氏の庶流と称しました。ところが中川氏二十四代重清は板東八平氏の末裔でその父高山重利のとき常陸国から摂津国中河原に來たと言われています。

重清は中川清村の娘と結婚し中川家を継ぎました。重清の嫡男が中川瀬兵衛清秀です。中川氏は摂津国福井村中河原の開発領主として土着したようで、居館の跡とされる西国街道と龜岡街道の交差点に「史蹟 中川清秀由緒地」の石碑が茨木市によって建てられています。清秀は池田氏に仕えていましたが従兄弟である荒木村重が池田氏を圧倒すると荒木氏に従いました。

中川清秀は元龜二年（一五七一年）白井河原の合戦で和田惟政を討ち取り、その功により荒木村重によって摂津国新庄一万



中川清秀像(梅林寺所蔵)

石から一躍約四万石の茨木城主とされたことで歴史に登場しました。清秀が和田惟政の首を討ち取ったとされる短刀が茨木市福井の新屋坐天照御魂神社に奉納され今に伝わっています。

この後、織田信長により摂津国守護とされた荒木村重でしたが、天正六年（一五七八年）本願寺、毛利氏につき信長に反旗を翻しました。

中川清秀は高槻城の高山右近とともに当初は主君である村重につきましたが、信長の説得を受け信長方に寝返りました。このとき信長は古田織部に清秀を説得させており、また清秀の嫡男秀政に信長の娘、鶴姫を嫁がせる約束をしました。

翌年には信長によって茨木・新庄・呉服・箕面等約十二万石を知行する有力大名として茨木城主とされました。また中川家には天正八年（一五八〇年）に羽柴藤吉郎（秀吉）が清秀と兄弟の契りを結んだという文書が残っており、秀吉との親密な関係がうかがえます。中川清秀の子は秀政、秀成（ひでしげ）

たは（ひでなり）、糸姫ら五人がいました。また清秀の妹、せんは茶人として有名な古田織部の正室でした。清秀の娘、糸姫は信長の有力な家臣で、豊臣秀吉のちには徳川家康の信頼もあ

つかった池田輝政の正室となり嫡男利隆を産んでいます。中川家が戦国末期く江戸初期の混乱の時代を生き延びたのは、このような信長、秀吉、家康との深いつながりがあったためです。天正十年（一五八二年）本能寺の変の直後にそれを知らせた清秀に秀吉がおくった返書が茨木の梅林寺に残っています。信長・信忠親子は無事だという偽りの手紙で、なんとしても清秀を味方につけておきたいという秀吉の意図がよくわかります。

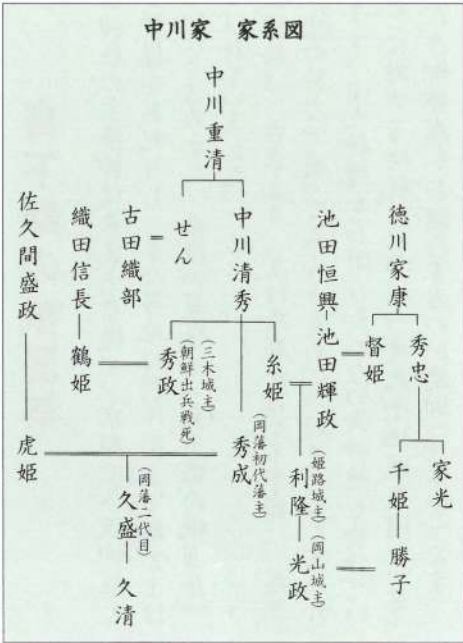
その後の山崎の合戦で清秀は高山右近とともに秀吉軍の先鋒として活躍しました。天正十一年（一五八三年）、信長死後の覇権をめぐる秀吉と柴田勝家の対立はついに賤ヶ岳の戦いとなりました。中川清秀は大岩山に陣を構えましたが、手薄な状態を

見た柴田方の佐久間盛政の軍勢に急襲され、清秀は奮戦しましたが討ち死にしました。大垣城でこの様子を聞いた秀吉は直ちに軍を返して賤ヶ岳に急行し、柴田軍を

打ち破ると勝家の本拠である北之庄城（福井市）に攻め入り、柴田勝家を滅ぼしました。中川家は嫡男である秀政が継ぎ茨木城主となりました。このとき古田織部が秀政の後見役になりました。

その後中川秀政は播磨国三木十三万石に転封されました。秀吉による朝鮮出兵（文祿の役）のおり、秀政は京畿道で見回り中に待ち伏せにあつて戦死しました。失態での死のため本来は改易のところを秀吉は父清秀の功績に免じて、所領を六万石余に半減させたものの秀政の弟、秀成への家督相続を許しました。文祿三年（一五九四年）秀吉により秀成は豊後竹田の岡城に転封され明治まで続きました。

（駅前一丁目 島山眞悟記）



雨の中の 茨木音楽祭

二十四節気の一つ「立夏」、暦の上では夏を迎える五月五日、今年も「茨木音楽祭」通称「茨音」が行われました。「音楽を通じて、まちを元気にしよう」という思いで始まった市民参加型の音楽イベントとして、今回で六度目を迎えました。

今年は雨模様という天気予報の通り、午前中は小康状態を保っていた曇り空も、午後からは本格的に降りだし、傘が手放せない天候となりました。また気



温も十九度と、このところ好天が続いていたせいか、肌寒くさえ感じました。「茨音」始めて以来初めての雨天での開催となりましたが、開催者有志は合羽をつけ、悪天候をものともせず活動していました。

今回、当社の境内は「むばらきステージ」と名付けられ、市内六つの屋外会場の一つとして「食」「音楽」「芸」をテーマに様々な催しが企画され、またアイデアが創出されました。

特に会場の名称となった「むばらき」は、まだ我が国に漢字が伝わるはるか昔、私たちのまち「茨木(いばらき)」の地がこのように発音されていたと考えられており、現在の茨木という漢字があたりられるのはずっとあとになってからのことです。

残念ながら雨天のため、本殿の北側で予定されていた催しは中止となりましたが、境内で実施されたイベントの中で、特に目を引いたのが竹と藁を使って作成した小屋でした。

人間一人か二人がかるうじて入ることができる大きさの小屋で、参加者は雨に濡れながら懸

命に小屋作りをされている方の様子を、傘を片手に見守っていました。なお、小屋作りに使った藁は地元の方にお分けた、いただいたものとお聞きしました。

農業従事者が減少する昨今、藁は神社の鳥居に付けるしめ縄にも使用される貴重なもので、都心部では年々地元での藁の確保がむづかしくなってきたのが現状です。境内ではそのほかに茨木で育った地野菜を用いた軽食を提供していましたが、稲作をはじめ、こういった地場産物の振興が、地域の活性化につながる一つの要因となるのではないのでしょうか。

午後二時頃には少し雨もあがり、境内には参加者が多く見受けられるようになりました。境内では音楽家による演奏が雨天によるこれまでの鬱憤を晴らすべく、盛大に繰り広げられ、太鼓やギターの色々に、たたんだ傘を片手に手拍子を合わされ、熱心に聞き入る方々が印象的でした。

今回は天候に大きく左右される結果となりました。早くから

会議を重ね当日のタイムスケジュールをはじめ様々な企画を検討された主催者の皆様には少々残念な結果となってしまいました。が、こういった状況によって得るものもたくさんあったに違いありません。今回の経験を今後の活動に活かして、「茨音」の更なる発展につなげていきたい。ただきたいものです。

御奉納報告

東門前の手水舎の囲いが傷んでいましたが、この度、奈良県吉野の「株式会社寺本木材・アマチュアアーティストの仲間達」様より御奉納いただきました。厚く御礼申し上げます。



奉賛会だより

去る四月十八日、恒例の奉賛会厄除安全祈願祭が当社春祭に合わせ、斎行されました。

祭典終了後、参集殿二階で総会が行われました。

木内会長挨拶の中で、昨年の総会で、伊勢の神宮の第六十二回式年遷宮で奉賛会としてご遷宮を奉祝できる事業ができないかとのご意見をいただき神宮参拝を企画いたしました。

昨年の十一月八日に実施し百名近いご参加をいただきご好評いただきました。今年度も日帰りの神社参拝を予定しております。その折には、多数ご参加いただきますようお願いしたいとのことでした。

また、近年奉賛会の会員数が、徐々にはありますが減ってきておりましたが、前回お知り合いの方のご紹介をお願いいたしましたところ、会員数が若干増えたのご報告がありました。

そして、総会までに行われた役員会で、宮司様より元和八年(一六二二年)に創建された現在の本殿が、来る平成三十四年



(二〇二二年)に創建四百年の嘉節を迎えるにあたり、本殿の老朽化している銅板の葺替他、記念事業を行いたいとお話があり、当会といたしましたも、その事業に奉賛し、奉祝いたしたく考えている旨の報告がありました。

総会終了後、「第六十二回神宮式年遷宮 斎行への足跡」のビデオが上映、その後直会に移り、会員相互の親交を深められ、盛会裡に終了しました。

奉賛会では、随時ご入会を募っております。年会費は三千元です。

詳しくは社務所までお問い合わせください。

NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」で紹介されました

去る五月四日に放映されたNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」で、当社の東門と御本殿が紹介されました。「官兵衛紀行」という本編の後に放映されるコーナーで、その回に本編で登場した茨木城主の中川清秀や有岡城主の荒木村重のゆかりの地として、有岡城跡(伊丹市)とともに、「茨木城跡」の石碑が立つ茨木小学校や、搦手門と伝えられる東門が放映されました。かつての茨木城の裏門にあたり、茨木城は戦国時代に活躍した中川清秀や片桐且元が城主をつとめた城として歴史に名を残しています。残念ながら江戸時代初めの一国一城令によって元和三年廃城となり、現在、往時を偲ぶことができるのはこの搦手門と、大和慈光院に残る門だけです。



東門
茨木城の搦手門を修築されたといわれる

これからの主な行事

大祓神事

六月三十日

午後二時斎行

茅の輪

くぐり

厄除神楽

茅の輪守・粽授与

夏祭

七月十三日

宵宮

十四日

本宮 午前十時斎行

神輿渡御 神楽奉納

末社琴平神社例祭

九月十日

例大祭(秋祭)

十月十日 午前十時斎行

七五三詣

十一月中随時

祈禱者にお守り・おみやげ授与

末社恵美須神社例祭

十一月二十日

天石門別神社記念祭

十一月二十二日

新嘗祭

十一月二十三日

大祓・除夜祭

十二月三十一日

